

「あなたがいるこの場所が好き」

いつも やさしさと愛情 感謝の心



御室流

花垣 ちづ子 先生作品

生花教室講座生募集

日時 毎月第2・第4水曜日
午後7時～
場所 吉野中央ふれあいセンター
講師 御室流
花垣 ちづ子 先生
※花材費1000円が必要と
なります
申込先：吉野中央ふれあいセンター
電話番号：088-696-2486

暖かな春の日差しがなによりうれしい季節となりました。お変わりございませんか。
さて、今年は選挙の年です。本年4月9日(日)は徳島県知事選挙及び徳島県議会議員選挙が執行されます。
又、2週間後の4月23日(日)には、阿波市長選挙が行われる予定です。私達の将来を決める大切な選挙です。棄権をしないよう必ず投票しましょう。

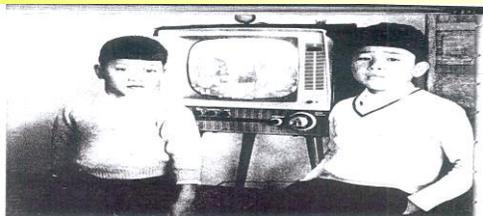
皆さんお元気ですか

県内でただひとつの村、佐那河内村が徳島市への合併を見送った理由

「平成の大合併」により、徳島県内では七つの村がなくなり、現在、村として残るのは、人口二八〇〇人(令和二年国勢調査で総人口二〇五八人、世帯数七七一世帯)の佐那河内村ただひとつである。村は徳島市の中心部から西南に約一六キロ、園瀬川に沿って登った位置にあり、古くは狭長村と称された。明治三二年(一八八九)に市町村制が始まって以来、この自治体と合併することもなく現在まで続いてきた。
しかし実際には、過疎・高齢化や人口減などで、単独自治体の維持が難しく、平成一六年(二〇〇四)の住民アンケートで七一・五パーセントの住民が「合併は必要」と答えている。それなのに、なぜか村は残った。むしろ唯一の村となった今では、依然として財政が厳しい状態が続くものの、村長をはじめ、村民は村としての存続を望むくらいだという。一体佐那河内村に何があったのだろうか。
平成一六年当時に持ち上がったのが、徳島市への合併である。しかし当時の松尾村長は山間過疎地である佐那河内村との合併は徳島市にとってはメリットがないと考え、遠慮する形で合併の申し入れを見送っている。その後、村長となった原村長は、「童話の『春の小川』や『夕焼け小焼け』の世界に描かれた、日本の原点のような農村が求められる時代がきつと来る。そうした農村を残したい」と語った。
そうした村長の希望のもと、佐那河内村は存続へ向けてたゆまぬ努力を続ける。
とくに村が力を入れているのが、ゴミ処理の問題である。焼却炉などの処理施設がないため、村ではゴミ処理を県内の民間企業に委託しているが、これにかかる費用は少なくない。そこで、村全体でゴミを三分別する方針を策定。結果、ゴミの量が減少し、処理に費やす費用の削減に至った。また、徳島大学との連携で地域ブランドを活用するなどの対策も講じている。
そして、もうひとつ佐那河内村のコミュニティを支える強力な武器がある。
佐那河内村には古くからある「講中」と呼ばれる相互扶助組織や、「常会」「名中」と呼ばれる住民の自治組織がある。「常会」は江戸時代の五人組の流れをくむ自治組織で、現在村には四七の常会がある。また「名中」は秋祭りの氏子の単位で、とくに「嵯峨名中」は嵯峨地区(一常会一八戸)の住民で組織し、祭事のほか地域防災・公民館運営・地域団体補助などを行なう。
なんと江戸期の村の組織がそのまま傳承されて、現在も機能しているのである。
日本の原点のような農村を残す……村長のつばやきに込めた思いがわかる気がする。

(歴史書より)

昔懐かしい風景



テレビがやって来た
(時代が変わった・昭和34年)

4月10日に皇太子殿下と美智子様の結婚パレードが行われ、全国で1,500万人がテレビの前にくぎ付けになった。この時期にテレビを購入した家族も多く、夏にはプロ野球のオールスターゲームを楽しんだ。

絶対に面白い一言

公園の池に看板があり、「鯉のイサ100円」と書かれていたのを見て、100円玉を投げ込んでいるおじさんがいた。



うちの父は、沖縄へ向かう飛行機の中でえらそうに「沖縄はなあ、島全体がさんしょうおでできてるんだぞ！」と大声で言っていた。それをいうならサンゴ礁だろ！



メイドカフェ？冥土にもカフェがあるんかえ？

シルバー川柳



方言は国の手形

(方言には土地の味があり、懐かしさがあり、温かさがあり、誇りがあります。)

あんでえー(あるじゃないか)
いがる(怒鳴る。わめく)
行っきょん(行くんですか？行くところですか？)
いけるで？(いけるん？)
(大丈夫ですか？)